

『福山大学経済学論集』

第 46 卷

(2022 年 3 月) 抜 刷

新入生オリエンテーションの初年次教育としての可能性：親善行事についての報告

櫻 木 規美子

新入生オリエンテーションの初年次教育としての可能性：親善行事についての報告

櫻木規美子

概要

本稿の目的は、2021年4月13日に本学で行われた経済学部経済学科の親善行事について報告するとともに親善行事と初年次教育について検討することである。高校教育から大学教育への移行を支援するプログラムである初年次教育は、アカデミックスキルの向上が重視されている現状がある。しかし実際には人間関係なども高校からは大きく変わり、周辺環境に適応していくことも大学生活を送るうえで非常に重要になってくる。したがって、初年次教育には居場所づくりや人間関係の構築としての機能も持つべきである。そこで、その意味合いの強い新入生オリエンテーションの親善行事を取り上げ、可能性を考察していく。

キーワード：初年次教育、コミュニケーション、人間関係の構築

1,はじめに

1.1,大学における初年次教育について

初年次教育は、文部科学省中央教育審議会（2008）の学士課程教育の構築に向けて（答申）の中で、「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」あるいは「初年次学生が大学生になることを支援するプログラム」と説明されている。具体的内容としては、「レポート・論文などの文章技法」、「コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術」、「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法」、「学問や大学教育全般に対する動機付け」、「論理的思考や問題発見・解決能力の向上」、「図書館の利用・文献検索の方法」などで、アカデミックスキルが重視されている現状がある。

福山大学における共通教育（平成28年改訂）（2016）の中で、高校生活から大学教育（生活）へのスムーズな移行を支援し、大学生としての学習スキルを育成し、課題探求力、学習力を高める初年次教育が「全学共通教育システム」に含まれるべき要素の1つとして挙げている。筆者が所属する経済学部経済学科では、通年実施科目「教養ゼミ（1年次開講）」「基礎ゼミ（2年次開講）」が実質の初年次教育の役割を担っており、実施内容は、グループディスカッション（1年次）、レポート作成やプレゼン発表（2年次）などで、アカデミックスキルの向上が主な目的になっている。福山大学教育システム（改訂版）（2016）では、「福山大

学では、人間関係をつくりながら学ぶ『目標設定型教育システム』のもと、十分な実践力を発揮するために修得されるべき資質を設定し、最も効果的かつ効率的な資質修得のため、共通教育科目、教養教育科目、および専門科目を配当していく。」と記されている。さらに初年次教育について高校教育との接続機能として新たに工夫する必要性が記され、経済学科の初年次教育の現状は、人間関係の構築のサポートが十分か考える必要があるのではないか。そこで本稿では、居場所づくりや人間関係の構築という意味合いのプログラムである本学の新入生オリエンテーションの親善行事および初年次教育について検討する。

1.2, 福山大学における新入生オリエンテーションについて

福山大学の新入生オリエンテーションは、入学式以降前期授業が始まるまでの期間に行われる新入生を対象としたプログラムである。目的は大学生活を送るために必要な支援を行うことであり、大学での学修を円滑にする初年次教育としての機能も担っている。実施方法は各学部学科によって異なるが、内容は履修登録をはじめ学務上および大学生活に必要なガイダンスなどを行うことになっている。また2020年度より遠隔方式での授業が導入され、2021年度も対面方式と遠隔方式を並行して実施することから、遠隔授業ガイダンスという期間が追加され、例年より1週間長くオリエンテーションが実施された。親善行事についてはこの遠隔授業ガイダンスの期間内に実施した。2021年度の新入生オリエンテーションのスケジュールを表1に示す。

表 1. 経済学科における新入生オリエンテーションのスケジュール

月/日 (曜)	時 間	内 容 (担当教員)	参加教員	会場	備考
4月3日 (土)	10:00~10:30	入学式		大学会館	
	10:30~12:00	経済学科オリエンテーション	全教員	2011	
		学部長、学科長 挨拶 書類回収 諸連絡			
4月4日 (日)	休 日				
4月5日 (月)	8:00~8:30	バス乗車オリエンテーション (経済学科)			
	9:15~11:00	オリエンテーション 担任紹介 学科紹介 (北浦) 学生生活 (吉田) 連絡先交換	全教員	2011	
	11:00~12:00	昼休み			
	12:00~13:30	セレクションの使い方、ID登録 (石丸)	全教員	2011	PC
	14:00~15:30	英語能力テスト (石丸、野田)			PC
4月6日 (火)	8:30~9:00	バス乗車オリエンテーション (経済学科)			
	9:30~11:00	オリエンテーション1 孔子学院 () 留学・Mプロ (藤本) 就職、進学 (佐藤) 資格 (三川) 研究編入、インターンシップ (中村)		2011	
	11:00~11:45	昼休み			
	11:45~12:45	オリエンテーション2 教務関係 (田中)		2011	
4月7日 (水)	9:00~9:30	バス乗車オリエンテーション (経済学科)			
	10:00~12:30	オリエンテーション 履修指導 (田中)	全教員	2011	
	12:30~13:30	昼休み			
	13:30~16:00	オリエンテーション 履修指導 (田中)	全教員	2011	
4月8日 (木)	9:30~10:00	バス乗車オリエンテーション (経済学科)			
	10:30~12:30	オリエンテーション 履修指導 (田中)	全教員	2011	
	12:30~13:30	昼休み			
	13:30~16:00	オリエンテーション 履修指導 (田中)			
4月9日 (金)	前 日	履修指導 個別指導	全教員	各研究室	
		開学全 教職 説明会 (該当者のみ 別紙参照)			
4月10日 (土)	休 日				
4月11日 (日)	休 日				
4月12日 (月)	午前中	房子：健康診断			
	13:00~15:00	オンライン授業ガイダンス (セレクション、Office365) (石丸)	若干名	2011	PC
	15:00~	教職・スポーツマネジメントコース希望者ガイダンス			
4月13日 (火)	午前	親善行事 (お弁当が出ます)	全教員		
	午後	親善行事	担当：豊本		
4月14日 (水)	午前中	女子健康診断			
	13:00~	図書館オリエンテーション、学内散策 (佐藤)	全教員		
4月15日 (木)	13:00~	オンライン授業ガイダンス (応用) (野田)	若干名	2011	PC
4月16日 (金)	午前	第0回 教養ゼミ (クラス別)	全教員	各教室	

1.3,親善行事について

経済学部経済学科の親善行事は例年 1 泊 2 日の合宿形式で行われ、レクリエーションの実施や上級生からの履修指導などで交流を図り、学生同士の親睦を深めることを目的としている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止されたが 2021 年度は、履修指導は教員で行い新入生の交流は学生（櫻木ゼミ所属の 3 年次生 13 名）が企画運営を実施した。

本稿は、2021 年 4 月 13 日に本学で行われた経済学部経済学科の親善行事について報告するものである。

2,実施内容

2.1,実施概要

2021 度は宿泊を伴わない形式をとり福山大学構内で行った。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、学籍番号順に 3 グループに分けグループごとに各プログラムに取り組んだ。授業開始後も引き続き関係性が継続できるよう教養ゼミのクラス分けも考慮しグルーピングを行った。各プログラムは 90 分を目安にしてすべて回るようにした。当日の実施スケジュールは表 2 に示す。コミュニケーションを取れるプログラムになるように工夫し、円滑に活動が進められるよう学生がサポートした。

表 2.当日の実施スケジュール

時間		Aグループ		Bグループ	Cグループ
	8:30	サポート学生集合			
9:00	～ 10:00	新入生集合・説明			
10:15	～ 11:45	プログラム①	学内散策謎解きゲーム	レクリエーション	球技大会
12:00	～ 13:00	昼休憩			
13:15	～ 14:45	プログラム②	球技大会	学内散策謎解きゲーム	レクリエーション
15:00	～ 16:30	プログラム③	レクリエーション	球技大会	学内散策謎解きゲーム
16:30	～ 17:00	片付け			

2.2,各プログラムの詳細

2.2.1,学内散策謎解きゲーム

学内散策謎解きゲームは、サポート学生から示されたクイズをもとにゴールを探し当てるゲーム。1 チーム 5～7 名程度で構成し、大学構内に設置した 13 ケ所のチェックポイントにあるアルファベットを組み合わせてチームでゴールを目指す。チェックポイントに到着したら指示役の学生に LINE 連絡し、次のチェックポイントにつながるクイズを受け取る。ゲームで使用した資料を示す（図 1～3）。このゲームのねらいは、大学構内を歩き回り実際に建物などを見て知ること、チームでアイデアを出し合い、考えを共有することでコミュニケーションを深めることである。

4/13（火）経済学科新入生オリエンテーション 2021～謎解き散歩♪～

13個あるクイズを解き
学内の13か所にある
アルファベットを並びかえて
あらわれた場所にたどり着け！

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

【注意事項】

- ◆個別での行動禁止、必ず班行動を！
- ◆他の班との情報共有禁止！
- ◆エレベーターなどは使用せず、必ず歩いて移動するように！

【立ち入り禁止場所】

- ◆女子寮
- ◆駐車場
- ◆工事中的場所（※危険な場所には近づかない）

【メンバー】

学籍番号	氏名	学籍番号	氏名

図 1. 学内散策謎解きゲームの配付資料①



図 2. 学内散策謎解きゲームの配付資料②

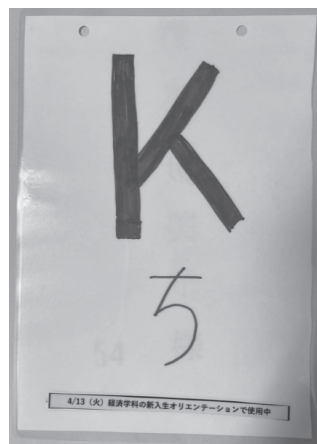


図 3. 学内散策謎解きゲームの掲示物

2.2.2,レクリエーション（ワードウルフゲーム・NGワードゲーム）

ワードウルフゲームは、プレイヤーの中で少数派のお題を持っている人（＝ワードウルフ）を当てれば勝ちという遊び。ただし当てられたワードウルフが多数派のお題を正解することができれば、逆転勝利できる。多数派と少数派のお題カードをプレイヤーに配りプレイヤーは自分のお題を確認するが、自分以外のお題は見ることはできない。プレイヤー全員が平等に発言し、そのお題について話し合いワードウルフを探っていく。サポート学生はプレイヤー全員が発言し、円滑に話し合いが進むように促す。

NGワードゲームは、与えられたNGワードを言ってしまったら負けという遊び。プレイヤーごとに違うお題を配り自分のお題は見ないように額に貼るなどして自分以外は確認できるようにしておく。プレイヤー全員が平等に発言し、普通の会話をしながら、それぞれのNGワードを引き出す。サポート学生はプレイヤー全員が発言し、円滑に会話ができるように促す。

これら遊びのねらいは、発言する機会が必ずあり発言に対する反応を受けることで、グループの中での承認や共感、笑いなどの様々な表現を促し、アイスブレイクにつなげることである。新型コロナ感染症予防の観点からグループをさらに2つ（25名程度×2教室）に分け各教室（ワードウルフゲーム・NGワードゲーム）でレクリエーションを行った。サポート学生でゲームのルール等の共有を行い、各担当教室の進行は各々で展開を考え進行した。サポート学生がファシリテーターとなり、ルールのアレンジやグルーピングの変更、フリートークなどを行い新入生の交流が深まるよう工夫した。

2.2.3,球技大会（バレーボール・ドッジボール）

バレーボールのみの予定であったが、新入生の要望によりドッジボールも急遽実施した。1チーム7～8名で構成し、それぞれの競技を行った。各グループの状況に合わせてチームや組み合わせ・試合数などを考えサポート学生が進行した。（図4・5）



図4.球技大会の様子（バレーボール）



図5. 球技大会の様子（ドッジボール）

3.親善行事のふりかえり

サポート学生 13 名には後日 Cerezo 上で新入生オリエンテーションの親善行事に関する自由記述式のアンケートに回答してもらった。質問内容を表 3 に示す。このアンケートをもとにふりかえりを行った。

表 3.ふりかえり用アンケートの質問内容

質問内容（自由記述）
1. 新入生親善行事・概要と目的
2. 準備について、自身が参加したときに行ったこと
3. 当日実施内容とスケジュール
4. 準備に関するふりかえり・感想
5. 当日のふりかえり・感想
6. 準備から当日をすべてふりかえり、チームとしての連携・連帯など良かった、やりやすかったことや状況などを具体的に教えてください
7. 準備から当日をすべてふりかえり、よりスムーズに進めるためにチームとして必要だと感じたこと、理由も含めて具体的に教えてください
8. 今回の企画運営全体についてのまとめ・感想

3.1.サポート学生によるふりかえり

打ち合わせ・準備のスケジュールおよび内容については表 4 に示す。アンケートの回答の中には「準備期間が短かったため、前日までギリギリにやったので、もっと余裕をもってすすめていきたい。」「もう少し準備の時間が欲しかったというのが率直な意見です。」などの時間が足りなかったという意見や「もう少し準備する物を確認しておけばよかった。」「準備不足な場面が多め目に見えた。」「すべてのゲームにおいて、細かい事まで決めておけば良かったです。」などの準備不足を指摘する声があった。例えば、球技大会における女子への対応（チーム編成や特別ルールなど）やレクリエーションにおけるオプションルールやバリエーション、時間が余った時の対応などの事前に考えておくべきことや準備するものに関する反省点が多く挙げられていた。

当日については、「教室は 1 人で回すのが大変だと思っていたが、思った以上に上手く回すことが出来たしかなり楽しんでいた。私も女の子のチームと混ざって NG ワードゲームに参加したがとても楽しかった。それに、他のチームを回って会話に参加したりするのはコミュニケーションが取れてとても良かったと思う。片付けを終えた時には疲れて大変だったが楽しい行事だったと思う。」「1 年生に学校のことを知ってもらう為に宝探しで歩き回ってもらい、仲を深める為にバレーやワードウルフをしてもらいましたが、1 年生に聞いたところ学校の土地勘がある程度身についたし友達もできたと言っていたので成功だと思います。」「結果、すべてのスケジュールを終えた時に、一年生同士仲良くなった人たちが増えていたし、コミュニケーションが増えているように感じたので、成功だと思う。」というように、サポート学生のポジティブな意見も多く見られた。

表 4.当日までの打ち合わせのスケジュール

日付	主な打ち合わせ内容
2021/3/16	概要説明、今後のスケジュール
2021/3/22	プログラム決め、役割分担
2021/3/30	プログラムのスケジュール決め、準備するものを確認
2021/4/1	感染症対策含む詳細の確認
2021/4/5	配付資料や掲示物などの作成
2021/4/6	必要物品調達、詳細の確認
2021/4/12	最終確認

3.2.行事全体を通して

今回のプログラムは、新入生を対象に考えた内容であったため、新入生同士の親睦は深められたと感じている。ただ例年であれば上級生が履修指導をするなど関わる機会があったが、サポート学生が13名（当日参加は10名）で進行することがメインになったため新入生が上級生と交流する場面が少なかったのは反省すべき点である。その他反省点として教員との関わりも希薄であったことが挙げられる。現状のクラス担当制では、担当教員のことはよく知ることができるが、他の教員との接点はほとんどない。そのため、事前交流の時点で授業とは違う教員の姿を見せることも親しみという意味では必要かもしれない。今回の球技大会には教員チームとして参加したが、新入生と教員が隔てなく交流している姿が印象的で、同じ空間にいて会話の機会ができることもメリットだと感じた。良かった点としては、ゼミの活動と捉えると仲間で意見を出し合い役割分担を決め進めていくプロセスを踏めたことで、初対面の学生いたゼミ生同士もお互いを知る機会にもなりとても有意義であった。今後は、新入生のオリエンテーションに対するニーズや満足度を把握するためにアンケートやヒアリングなどを行い、プログラム内容を精査し改善していくことも考えていくべきである。

4.まとめ

4.1.初年次教育の現状

近年、新入生同士の人間関係作りをサポートするための事前交流行事は当たり前に行われるようになった。今回の行事で新入生同士の関係性についてはある程度その役割は果たしたと感じている。しかし、授業開始後の継続的な支援は十分か、また新型コロナウイルス感染症による活動制限を受けた2年次生への支援体制はできているのか。まず1年次生の教養ゼミ前期は初回と第2回はクラス別対面方式で今後の学習計画についての作成と口頭発表、その後8週にわたり遠隔方式で資格対策講座、前期終盤は再びクラス別対面方式でグループワークを実施した。後期は遠隔方式で資格対策講座やレポート作成に関する授業で、対面方式は数回し

か設定されていない。事前交流行事で終わるのではなく、授業開始後に継続的に人間関係の構築の支援ができる体制作りが必要ではないだろうか。次に2年次生の基礎ゼミ前期ではレポート作成やスライド作成などは遠隔方式で実施したが、最低でも月に1度はクラス別対面方式で授業を実施した。クラス別実施回の内容は、各教員によって異なるが学生同士の交流ができるような内容で進めた。後期の内容はプレゼン発表とレポート作成で、半数以上の授業をクラス別対面方式で実施する予定である。

全国的に初年次教育の充実が図られているが、高橋（2014）は、流通経済大学のピア・サポート活動である社会学部が独自のプログラムとして実施した「しゃべり場」について取りあげている。「しゃべり場」は上級生の自らの体験談を語り交流することで新入生の意欲を引き出すプログラムである。プログラムの目的は2点あり、第1は大学生活の仲間づくりと目標作りに先輩学生を交流させること、第2は講義形式で疲れた新入生をリフレッシュするための場とすることである。結果新入生に上級生に対する尊敬や大学生活を意欲的に取り組みたいなど前向きな気持ちが引き出され有意義な時間だと記されている。さらに上級生にも前向きな意見が多く、今後の意欲につながるケースがあったと報告されている。その他、村川（2015）は、関西大学人間健康学部の独自プログラムである関大型体験学習プログラム（K-ELP）を取りあげ、大学4年間の教育構想の中で初年次教育に関わる1年次について「大学での学びが高校までと最も違うのは、大学が主体的に学ぶ場であるという点である。教わるという構えから学ぶという構えへの転換を図るうえで、このプログラムで最も重視するのは「協同で学ぶ」ことである。それは単に集団で学ぶのではなく、集団から学ぶこと、さらにいえば、自分と違う他者から学ぶことである。人は一人一人異なる体験、異なる考え方をしている。しかしその「違い」があるからこそ、互いに学びあい成長しあえる。自分と違った意見や考え方、目標をもった人と共に過ごし、互いの違いを認め合い、支え合うことこそが大学での学びの基盤であり、この体験を基盤にした初年次教育プログラムにおいて最も大切とされる点である。」と述べている。実際にこれらを体験していく授業を設定しており、アドベンチャープログラムを導入し通年実施している。1クラス15名程度の少人数クラスに教員1名とラーニングアシスタント（LA）として上位年次生1・2名が教員の補助につくことで、ロールモデルとして協同での学びを後輩達に伝えていく役割も果たしている。このプログラムが導入されてから10年で退学者が減少し、意欲的な学生が増えた印象がある。

4.2.今後の展望

初年次教育の今後の展望としては、継続的な支援、上級生の関わり、リフレッシュの時間の3点が考えられる。まず継続的な支援について、新型コロナウイルスの影響もあり難しいか

もしれないが、大学や教員に親しみを持ってもらうためにもオリエンテーション後できるだけ時間を空けず定期的に1年次生と教員が顔を合わせることが重要である。次に上級生との関わりについては、ピア・サポート活動という意味で今後重要な活動になってくると考えられる。例えば、教養ゼミの時間に各教員が担当しているゼミ生に協力してもらい交流の機会をもつ、少人数で実施できることをゼミ生が考案し1年次生と取り組んでみるなど、活動の幅が広がるかもしれない。最後にリフレッシュの時間については、新型コロナウイルス感染症での活動制限なども含め日々感じているストレスを緩和できる時間を設けることもアイデアの1つとして挙げておく。現在経済学科で行っている初年次教育はアカデミックスキル向上が主な目的で、他の講義も当たり前で勉強するばかりで休み時間はあるとはいえ、大学に休まる時間場所は少ないと感じている。そのような取り組みが退学を抑止する上で有効な役割を果たし、大学生活への適応しやすくなると考える。今後より意欲溢れる学科にしていくには、学生自身が楽しんで大学に来られる工夫が必要ではないだろうか。新型コロナウイルス感染症の影響で、当たり前の生活できなくなったこのタイミングに新しい大学教育を考えてみてもいいかもしれない。

5.参考文献および参考資料

- 1) 文部科学省中央教育審議会(2008)「学士課程教育の構築に向けて(答申)」
- 2) 福山大学長期ビジョン委員会教育改革部会(2016)「福山大学における共通教育(平成28年改訂)」
- 3) 福山大学長期ビジョン委員会教育改革部会(2016)「福山大学教育システム(改訂版)」
- 4) 高橋伸子(2014),「大学生のピア・サポートプログラムに関する一考察—流通経済大学社会学部初年次教育における新入生支援の事例から—」『流通経済大学社会学部論叢』第25巻第1号,57-75.
- 5) 村川治彦, 杉本厚夫, 三浦敏弘, 涌井忠昭, 小室弘毅, 灘英世, 安田忠典, 中川昌幸, 小野善生, 宮川治樹(2018),「実践知から生き方の探求へ: 関大型体験学習プログラム(K-ELP)の構築」『身体運動文化論攷』第17巻,1-18.

Possibility of freshman orientation as an First Year Experience : Report on communication events.

Kimiko Sakuragi

The purpose of this paper is to report on the communication event of the Faculty of Economics held on April 13, 2021, and to consider the communication event and the first year education. First-year education is a program that supports the transition from high school education to university education, but the emphasis is on improving academic skills. However, in reality, relationships have changed significantly since high school, so it is very important to adapt to any environment in college life. Therefore, we will take up the communication event of the freshman orientation, which includes the function of creating a place for the freshman and building relationships, and consider the possibility.